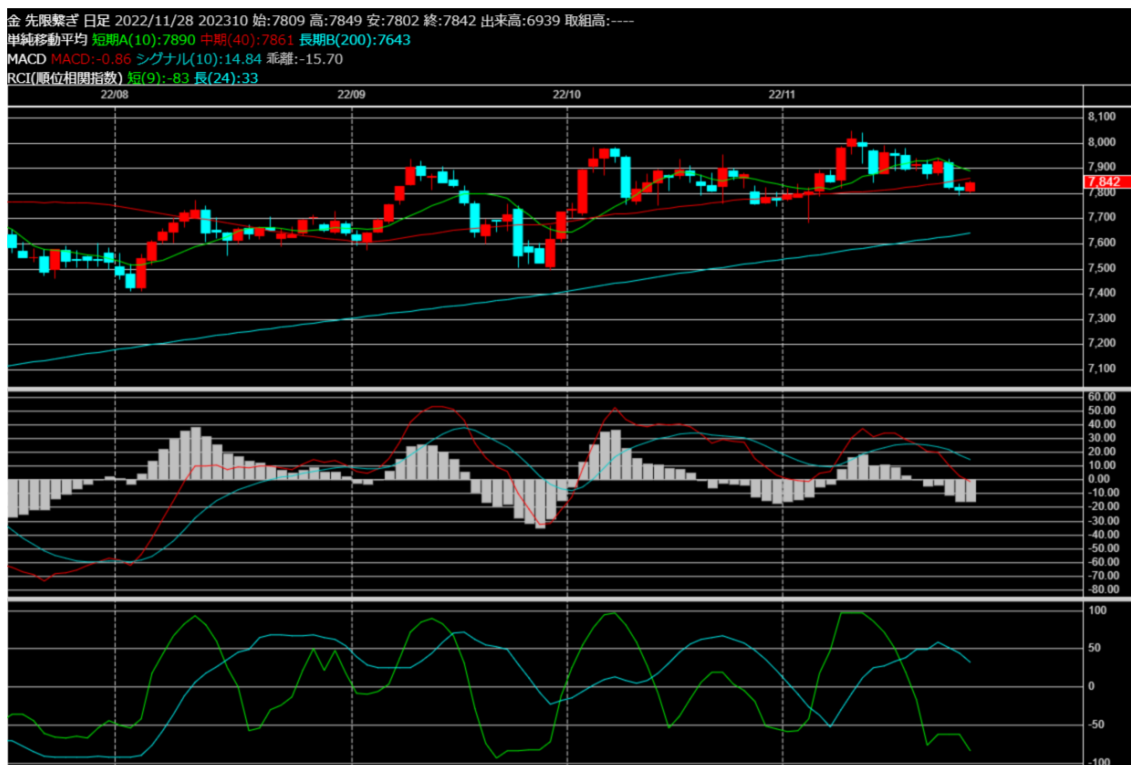


＜金標準先物、インフレのピークで円安の恩恵が消え 7700 円へ・・・＞



(出所：オアシス)

メスター・クリーブランド連銀総裁は「次回会合で 0.75%から減速することができる」と考える。それに全く異存はない」と発言し、デーリー・サンフランシスコ連銀総裁は「金融政策の効果が経済に行き渡るには時間差が伴うことに当局者らは留意する必要がある」と述べている。またリッチモンド連銀製造業景況指数が前回の-10 から-9 へ低下しインフレピークの予兆を示し、またミシガン大消費者信頼感指数も前月から低下する 56.8 と発表されている。FOMC 議事録でも「利上げのペースを落とすことが近く適切になる」と多くの当局者らは判断していると記載され、またゴールドマン・サックスは 2023 年第 2 四半期までに FRB は金融引き締め策を一時的に停止すると予想するなど、過度な利上げ継続が後退するなど、為替市場では円高・ドル安の動きを見せている。

特に円建ての金標準先物は、消費者物価指数が前年比 7.7%へ低下した事を受け、円安の恩恵が消えた値動きから 8049 円をピークに 7800 円まで下げている。また今週は感謝祭明けの月曜日にブラード・セントルイス連銀総裁の講演、30 日には GDP・改定値や ADP 雇用統計と合わせてパウエル FRB 議長の討論会の参加もあり、ターミナルレートの高まれば、円高で抑えられた金標準先物は 7700 円へ向けた値動きが強まると思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足の MACD では、MACD とシグナルが下げながら下向きの状態であり、RCI でも短期が下げながら長期も下げている。また日足が 40 日移動平均線は下回りながら 10 日移動平均線が下げるなど、戻り売りを強めたオシレーターに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,210,000 円(2022 年 11 月 28 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 11 月 28 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>